

細江カトリック教会だより

春号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

神に感謝することを忘れずに一日を振り返る

私たちは今、四旬節の聖なる季節を過ごしているのです。灰の水曜日から始まる復活祭までの四旬節は、イエス・キリストの過越の神秘を祝うために、心の準備をする期間であります。この期間は教会共同体にとっても信仰者一人ひとりにとっても本当に大切な時であり、イエス・キリストの受難と死を黙想することによって豊かで霊的な実りがもたされる時もあるのです。しかも、灰の水曜日で読まれた

第二コリントの教会への手紙の中で、「神様からいただいた恵みを無駄にしてはいけません」（二コリント6・2）と聖パウロが語っているように、四旬節はまた、神がすでに私たちの生活の中にどのように働いておられるのかを認識

する絶好の機会でもあります。そのため、今回の記事では、自分の人生又は自分の一日を振り返って、私たちの目がどこに向かっているのか、何を私たちは求めようとしているのか、それとも神の呼びかけに対して私たちは無視しようとしているのかを意識するために聖イグナシオによって意識究明について部分的に紹介したいと思うのです。

聖イグナシオによる書かれた霊操という本の中には五つの要点を含む一般究明の方法があります。

要点第一：いただいた恵みのため主なる神に感謝する。

要点第二：罪を知り、それを取り除くために助けを願う。

要点第三：特別究明において述べられた同じ順序を守り、時間を追って、また日課の項目に従い、起床から今の究明まで、まず思いにつき、次いで言葉、最後に行いについて自分自身に問いたです。

要点第四：過失を赦してくださるよう主なる神に願う。

要点第五：神の恵みを頼りにして、改善を決心する。主祷文。

(霊操 n.43; ホセ・ミゲル・バラ訳)



*エマオへの道

これらの要点から第三を取り上げて分かち合います。この要点は、一日に起こったことや出会った人々などに神を見出し振り返るように招いています。振り返りをするこ

によって神の働きや恵みなどを悟った例としての福音書の箇所はルカによるエマオへの道の場面です（ルカ 24:13-35）。この場面では、エマオへの道を歩きながら、復活のイエスと対話していたが、「イエスだと悟らなかった状態」から「イエスだと悟った状態」への二人の弟子の記述が描かれています。イエスが一緒にパンを裂いている間、「二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった」（ルカ 24:31）。イエスの姿が見えなくても、彼らはイエスを認識した後、慰めの経験に気づきました。それから、彼らは道を歩いていた時のことを振り返って、すべてがどのように始まったのかを確認し、すなわち、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、私たちの心は燃えてい

たではないか」(ルカ 24:32) と話し合ったのです。心が燃えているという心の動きに気づくことによって、彼らは十字架にかけられて死んでしまったイエスが今生きておられ、そして彼らと共に道を歩いていた時に導いてくださる方だと信じるようになりました。要するに、彼らは自分の内なる感情や心の動きに敏感で、その日の最も新しい出来事に神の存在と働きを見出すことができました。

歩きながら復活のイエスと話し合ったが、イエスだとは気づけなかった二人の弟子と同じように、私たちも生活の中で、様々な出来事や出会いに神様がおられることに気づかないかもしれません。しかし、それでもそこに神様がおられるのです。そして、二人の弟子にならって、神様はその時その場所で自分とどのようにかかわってくださったのか、又自分の心の動きはどんな動きだったのか、自分の一日を振り返ってみましょう。私たちは一日、様々な心の動きを体験していると思います。時には喜び、時には怒りを感じるかもしれません。とにかく、自分の中に何が起きているかに気づき、それをもって神と対話しましょう。もちろん、神様は私たちが感じていることや心の動きを既にご存じですが、それを神様と話すことによって、大切なことに気づいたり、特に神に愛されたりする実感が強くなるでしょう。

トアン神父



灰の水曜日に

四旬節の始まりとなる灰の水曜日に、教会は伝統的に、ミサの中で灰の式を行います。司祭は、前年の枝の主日に使われた枝を燃やして作られた灰を一人一人の頭にかけて、「あなたは塵ちりであり、塵に帰って行くのです」と、罪を犯したアダムに神が語ったとされる『創世記』の言葉を唱えます。灰をかぶることは、旧約の時代、そして、教会の歴史の中で、悔い改

めのしるしとして伝えられてきましたが、どちらかと言えば、それは過去に、そして、過去に犯した罪に思いが向きがちです。しかし、現代、灰の式では、もう一つの言葉、「回心して福音を信じなさい」を使うことが認められています。この言葉は、過去よりも、未来に向かって、自分自身を神に向けて、前向きに歩んでゆく決意につながる言葉です。この意味で灰の水曜日を受け止め、四旬節の間、そして、復活祭に向かう日々、是非、前向きな姿勢で生きるよう祈りましょう。

作道 宗三神父

平和アピール 1981 2/18 (土)

正義と平和協議会の講演会に参加して



3年ぶりに講演会・分かち合いが宇部教会でありました。

アルペ難民センターの漆原さんの講演で、「難民・移住者と“とも”に平和な未来を創る～回勅「兄弟のみなさん」の呼びかけに答えて～」がありました。

鎌倉の黙想の家で、今13名の方が生活しています。入管に収容されていて、仮放免されたら、働くことも出来ず、住まいもなく、お金も無い人を、入管は放り出すようなことをしています。

黙想の家では、その方に日本語を教えたり、畑仕事、子どもの教育支援、地域の活動に参加(学童教室)、難民カフェ、難民セミナーなどの活動を、雪ノ下教会、社会福祉協会、自治会等の連携で上手く機能していました。驚きです。私達のところは、難民の方はいませんが、ベト

ナムの方たちとお互いに知り合うことと、コミュニケーションが大切だと感じました。

押し付けではなく、一緒に考えて、行動していくことが出来たらと思います。

分かち合いの後のミサでは、戦争の終結を願う祈りを捧げて、今のウクライナの戦火の終結と核兵器を使用しないように、神に願いました。

正平協 林



「一步踏み出すために」 2/25 (土)

山口島根地区使徒職団体福祉部主催
宇部教会 講師：片柳弘史神父

お話の前「ともに歩むあたたかさのある教会」を願う祈りの後で・・・

1. すべては喜びから 2. 新しい言葉
3. 出かけていく教会 4. 具体的な実践といったテーマでお話してくださいました。

それぞれに、教皇さまの「福音のよろこび」と「福音宣教」などのメッセージから取り上げられて、社会生活の中で、今ここで生きている私たちへ励ましのような柔らかくて、また鋭いお話でした。

私たちが、困っている高齢者やほっとけない人がいると思うことだけでも、心に神さまの愛が溢れているのです。

奉仕をすることによって神の愛をいただく。福祉の活動は宣教につながっていて、とても大切なこと。

福祉部の活動に参加してください。
何もできなくても心を向けてください。

「教会は野戦病院であれ！」と。



ベトナム青年の紹介

こんにちは！
私の名前はホアンです。今年24歳です。
ベトナムから来ました。
どうぞ、よろしくお願いいたします。



防災研修会 2/26 (日)



火消しクジラ館での防災訓練。

15名のベトナムの青年たちを対象にと呼びかけていましたが、小人数での参加でした。

消防署の担当の方は、とても丁寧に教えてくださいました。また、ベトナム語でのシアターも考えて準備してくださっていました。青年たちは初めてくじら館に来られた方もいて、とても真剣に取り組んでいました。

私たちは何度も参加したことがありますが、煙避難体験室では、以前参加した時よりも煙が多くて、真っ暗で「どこ？どこ？」と、こんな状況ではとても本当の災害時には避難できるかどうか・・・不安になりました。

消火器の手順や緊急の時の電話など、やはりその時になったら果たして冷静に対処できるのかと・・・今まで何も起こらないだろうと安住している私がいて、つい防災のことを深く考えなかったと反省。

トルコの大地震のこともあり、想定外のことがいつ起こるか分からない世界です。

一年に一度の研修ですが、改めて災害時の避難や消防を考えることとなります。それは一人ひとりのいのちを大切にということと繋がっていると思えました。

『禍は忘れた頃にやってくる』



* 消火器の訓練



* ハーさんが通報の体験

地区だより III

私たちの地区もご多分に洩れず、他の地区と同様で平均年齢が高く人数も少なく活動ができる人がわずかです。それでもそれぞれ各人が出来ることをやろうという考えで掃除、典礼、案内の当番をなんとかやりこなせています。少数精鋭で協力しあって頑張っています。

コロナ過も3年が過ぎ制限を緩和する方向に動いています。教会もごミサが以前のように通常に戻り、教会行事も今迄通り行えるようになるかと思えます。コロナ過で中止になっていたパーティなどの大きな行事は、地区だけで取り行うのは厳しい場合があるのでグループの人達の協力も得て進めて行きたいです。

これからは、以前のように活発な交流が来、楽しいひと時を過ごせることで皆さんの心が癒されることを願っています。

建て替え委員会報告

(近況状況と経緯)

3月1日現在の計画予定は、既存教会解体は今年8月、新教会竣工は2024年末となりそうです。建設工程はまだ流動的ですが、随時お知らせ致します。

約6年前に委員会を発足し10年計画で進めてまいりましたが、ここにきて建物の老朽化スピードが早くなり、地震災害等の危険を緊急回避するため、建設計画をやむなく前倒しで行うこととなりました。

現在は基本設計から実施設計に取りかかるところです。1年半余りの工事期間中は、同敷地内カトリック教会センター1階フロアを仮聖堂として使用します。同時期に隣接の天使幼稚園も同敷地内で解体・新築が決定しております。狭い敷地内であり不便で窮屈な思いをされることとなりますが、どうかご理解のほどお願い致します。

建設資金は、多額の資金が必要です。司教区本部の指導を受けながら、計画実行に向けて進めております。

今後も6年前にさかのぼり一日100円積立、期間10年間のよう地道な活動が不可欠です。信徒のための信徒の教会づくりとして、皆さんのお力が必要です。

ご支援を宜しくお願い致します。

下記、銀行口座を開設しております。

信徒代表

振込銀行口座

口座名義 細江カトリック教会
(銀行名)(支店名)(店番)(科目)(講座番号)

山口銀行

本店営業部 001 普通 5113818

三井住友銀行

下関支店 711 普通 1090052

ゆうちょ銀行

一三九支店 139 当座 0113126

